

川西市参画と協働のまちづくりに関するアンケート結果

○NPO 法人へのアンケート

- ・回答団体数：18 団体
- ・協働した団体（複数回答可）

| 市民公益 活動団体 | 自治会等の 地縁組織 | 事業者 | 行政 | その他 | なし |
|--------------|---------------|-----|----|-----|----|
| 4 | 1 1 | 5 | 7 | 6 | 2 |

- ・今後の協働の意向

| 協働したい | 協働したくない | どちらともいえない | 無回答 |
|-------|---------|-----------|-----|
| 1 6 | 0 | 1 | 1 |

○ボランティア団体へのアンケート

- ・回答団体数：4 団体
- ・協働した団体（複数回答可）

| 市民公益 活動団体 | 自治会等の 地縁組織 | 事業者 | 行政 | その他 | なし |
|--------------|---------------|-----|----|-----|----|
| 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 |

- ・今後の協働の意向

| 協働したい | 協働したくない | どちらともいえない | 無回答 |
|-------|---------|-----------|-----|
| 2 | 1 | 1 | 0 |

団体が協働を通して感じていること

- ・予算が少ない。
- ・協働事業は、今後も必要だと考えられるが、その際に直接・間接経費のコスト感覚も必要だと思う。
- ・専門性を持った NPO 法人がそのスキルや知見を持ち寄った場合、そこにかかる人件費の担保も考えていくことが、互いに疲弊しないポイントではないだろうか。
- ・世間の中でつながりを持つ事によって、互いに持ち寄る情報や人脈が今後の活動にプラスに働いている。
- ・行政と活動団体との協働・協力・活動の継続が大切だと感じる。
- ・市教委の協賛を頂いても学校長の権限によりチラシ等も破棄。協力体制が取れていない。
- ・設立して間もない法人なので、まだ協働というのは難しいが、今後様々な立場の方々と関わりを持ち協力し合うことは、活動を行っていく上で非常に大切なことであるので行っていきたい。
- ・川西市民と協働してイベントを開催することによって、人のネットワークが広がった。

- ・ NPO としての市民活動、行政の役割、それぞれのしなくてはならない使命等が明確になった。
- ・ 障がいを持った方々が暮らしやすい社会、社会参加しやすい街づくり。それは障がいがない人も暮らしやすい社会だから。行政・地域・ボランティアが協力しあうことが大切。
- ・ 協働を担う人材の高齢化と減少。
- ・ 協働することで新しい発想が生まれるかもしれないと思う反面、つながるにはつなぎ役が必要になり、負担がかかるのではとの懸念もある。
- ・ 参画と協働のまちづくり研修の体験プランとして行政の方に来てもらい、活動を知ってもらう良い機会になった。スタッフも行政の方とふれあう機会がなく、なんとなく敷居が高いように感じていたが、ざっくばらんに話が出来て、親しみを持つことができたことが良かった。

協働をしたい意見

- ・ 知的・発達障がい者（児）への理解促進を図り、各地域へのグループホーム開設を実現したい。
- ・ これからの時代の地域課題などの解決には、様々なセンター同士による得意分野の「持ち寄り」による事業が不可欠だと考える。
- ・ 互いの成長の為に。
- ・ 何事も実施するには人の力が必要である。色々な人が繋がって川西市を盛り上げることをしたい。
- ・ 自分たちができる役割を果たしながら、地域に根付いていき、次の目標をめざしていくため。
- ・ 協働をすることで、活動の機会と幅が広がる。
- ・ 協働の相手から学ぶことが多い。
- ・ 障がいのある方が地域でより良く生活していくためには、多くの人の関わりによる理解が必要である。有効な関わりのために協働を行いたい。

協働をしたくない・どちらともいえない意見

- ・ 活動の場所、ボランティアの人数により協働できるかわからない。

○商業者へのヒアリング調査

- ・ 地区内を回るコミュニティバスを通すために、市の財政的支援が必要。幹線道路沿いにはバス停があるが、高齢者化が進み、坂道もあり、バス停までの距離が遠く、買い物も大変に感じている人が増えている。
- ・ 商業者が連携し、川西市の助成を受けて川西の B 級グルメ的な名物を作ろうと、「源氏うどん」を作った。様々な主体が開催するイベントに呼んでもらえるのはありがたい。市内のいろいろな店で「源氏うどん」を取り扱ってほしいが、メニューに採用されるには至らず、なかなか広がらない。
- ・ 新しい世代の人も「正論」をかざすだけではうまくいかない。まずは、人生の先輩である、現在の担い手の話を聞く姿勢が大切。そこから、少しずつ自分たちがやりたいことをやらせてもらう。
- ・ 地域活動をしている高齢者と若い世代の間には、意識の差があり、次の世代が入るのを阻害している。中間の世代が、橋渡しをすることが必要ではないか。（「背中を見て学びとれ」ではダメ。）
- ・ できれば他地域の人で参考事例などをアドバイスしてくれる人がいてくれると話し合いが進みやすいのではないかな。
- ・ 認知症の方が外に出ることができる地域にしたい。自治会のボランティア保険に加入して、散歩に連れ出してあげたり、少しぐらいの失敗があっても地域全体が見守り、安心して出歩けるまちにしたい。家族を含めてリスクが伴う場所に当事者を出したくないという意識の差がはばんでいるのではないかな。
- ・ 大きな資本を持つ企業と地域の事業所で、仕事の取り合いをするのではなく共存してまちづくりができればいい。
- ・ 対象が高齢者か若者かで、他の主体と協力できる内容も異なるのではないかな。
- ・ オーナーの承諾は必要だが、空き店舗の誘致をして、地域の人が集まれるカフェが作れたらいいのでは。
- ・ 商店会や近隣商店の協力のもとイベントを打つ。
- ・ 地域の商店なので、地域の人たちの顔もよくわかるので、高齢者の方の見守りや配達に行った際に安否確認も認知症サポーター的に地域活動団体と連携。
- ・ 地域内でも全ての商店が商工会員ではないので、イベントは市主催で開催する方が、商工会員ではない人にも参加してもらえる。
- ・ 幹線道路沿いで、能勢口までのアクセスが良くなりすぎて、若い人は地域ではなく梅田まで買い物に出てしまうので、地域で商店を営むことに難しさを感じる。